

差出人: NewsMail - metaFrontier.jp, LLC <newsmail@metafrontier.jp>
送信日時: 2013年4月15日月曜日 0:41
宛先: info@metafrontier.jp
件名: メタフロンティア ニュースメール Vol.13 (2013/4/15)

各位

いつもお世話になっております。
メタフロンティア合同会社の柴田賀昭です。

弊社が関わる業界団体の活動に関し、ファイルベース関連のトピックやセミナー情報、
その他各種ご案内などを不定期にてお届けいたします。

本メールの転送はご自由です。まわりにご関心をお持ちの方がいらっしゃいましたら、
どうぞ遠慮なくご共有ください。

また配信停止を希望される方は、お手数ではございますが本メールに対して返信操作を
して下さい(宛先: newsmail@metafrontier.jp)。その際、一行目に「配信停止」と記入
していただければ自動的に削除されますので、どうぞ遠慮なく。

◆目次

- 柴田賀昭の「ちょっとお茶でも。。。」
- AMWA(Advanced Media Workflow Association) 発
- EBU(European Broadcasting Union) 発
- FIMS(Framework for Interoperable Media Systems) 発
- SMPTE(Society of Motion Picture and Television Engineers) 発
- その他
- メタフロンティアからのお知らせ

◆柴田賀昭の「ちょっとお茶でも。。。」

- 第1回 ” おカネって何だろう～。”

本メルマガの発行を始めて早や一年、「色々参考になります！」といった嬉しい
お便りを頂戴する一方で、「単に情報が列挙されているだけで無味乾燥で面白くない。」
といった反応も幾つか頂戴しました。

まあ、元々は「単に(多分、他では得られないであろう:-))情報を皆様にお届けする
こと。」が目的でしたし、それは今でも変わりませんが、折角の機会でもありますので、
他のメルマガにも倣って、今回から柴田がふと考えていたことを「コラム」として
書かせていただくこととしました。

これまで提供してまいりました業界団体からの各種情報などは引き続き本コラムの
下に「列挙」しておりますので、お急ぎの方は直接そちらをご覧ください。

あるいは、もし一息つかれるお時間でしたら、ちょっとお茶を片手に駄文にお付き合い
いただけますと非常に嬉しいです。

さていきなりですが「おカネ」の話です。実はバブル華やからしき頃に学生時代を
過ごした柴田は、ひと時「為替ディーラー」なるお仕事に憧れていた時期もあったりして、
経済マターにも相変わらず関心を持っています。

そして昨今の話題と言えば「アベノミクス」、安倍政権の発足以来、世の中の雰囲気
が大きく変わり、円安株高が大きく進展したのは皆様も良くご存じのことかと(しかし、
事態を大きく変えるには、やはり「人心一新」なのか、と改めて思い知らされた次第)。
そしてその方針に従い、新たに日銀総裁に就任された黒田氏によって大規模な金融
緩和策が発表されました。

これは、要は市場におカネをじゃぶじゃぶに供給してやれば、おカネが自ずから動き
出して日本経済が活性化するのであろう、ということと解釈しておりますが、そういった

文脈の中でふと、ある有名(?)なジョーク(注)を思い出しました。

ときは8月、黒海沿岸の町。雨にぬれる小さな町は活気がなく、すっかり寂れていた。人々は借金を抱えて苦しい生活をしているのだ。

その町へ、一人の旅人がやってきた。そして町に一つしかないホテルに入ると、受付のカウンターに100ユーロ紙幣を置き、部屋を選ぶために2階へ上がって行った。

ホテルの主人は100ユーロ紙幣をひつつかんで、借金返済のために肉屋へ走った。

肉屋は同じ紙幣を持って養豚業者へ走り、100ユーロの借金を返した。

養豚業者はその紙幣を握ると、つけにしてある餌代と燃料代を払うために販売業者に走った。

販売業者は100ユーロ紙幣を手にとると、この厳しいご時世にもかかわらず、つけでお相手をしてくれる町の遊女に返そうと彼女のもとに走った。

遊女は100ユーロ紙幣を懐にしてホテルに走り、たびたびカモを連れこんだホテルに借りていた部屋代を返済した。

ホテルの主人は、その100ユーロを受け取ると、紙幣をカウンターの元の位置に置いた。ちょうどそのとき、部屋をチェックして2階から降りてきた旅人が、どの部屋も気に入らないと云って100ユーロ紙幣をポケットにしまいこみ、町を出て行った。

誰も稼いでないけど、町中の誰もが借金を返し終わり、町は活気を取り戻した

ここでは新たなおカネは発生していませんが、単にありもののおカネ(100ユーロ)が”動く”だけで皆がハッピーになったということ。つまりおカネは、単に”存在する”だけでは意味がなく、それが”動く”ことによって初めて、様々なヒトが持つ潜在的な”付加価値”を顕在化できるということですね(尤も上記の例は、サービス消費後の借金の解消なので、前後が逆ですが)。

これは別の見方をすれば、いくらおカネがあっても、それが”動く”ことがなければ、何の役にも立たない。上記で言えば、例えば旅人が100万ユーロ持っていようとも、宿泊を前提におカネを”置か”なければ、何も始まらなかったということでもあります。

日本人はその美德として「質素儉約」が尊ばれます。もちろん無駄遣いを止めたり無駄なコストを削減したりすることは引き続き重要な心構えではありますが、ただ皆が真面目に節制すればする程、その集合体としての社会経済に閉塞感が募ることは、全く皮肉なことです。

ここは円安株高の雰囲気にも素直に便乗して、これまで我慢あるいは躊躇してきたことに思い切って挑戦してみるなど、一人ひとりが今、”おカネを使って”一歩踏み出すという心掛けが大切だと思いました。そしてそれは最近の流行言葉で言えば、「いつやるの？今でしょ！」ってことですね。

(注)

元々はとあるメルマガで見かけたものですが、そのバックナンバーが見つからず、今回は <http://sarusaru2.wiki.fc2.com/wiki/%EF%BD%BC%EF%BE%9E%EF%BD%AE%EF%BD%B0%EF%BD%B8> から引用させていただきました。

◆AMWA(Advanced Media Workflow Association) 発

- AMWA AS-10(MXF for Production)規格が正式発行されました。
<http://www.amwa.tv/projects/AS-10.shtml>

- AS-08(Machine Readable Shims)がまもなく開始する予定です。

- 3/25(月)に開催されたAMWA TSC(Technical Steering Committee)会議の議事録が公開されました。
<http://forum.amwa.tv/attachment.php?attachmentid=1174&d=1364569843>

◆EBU(European Broadcasting Union) 発

- 6/25(火)-26(水)の日程でGenevaにて開催予定のNetwork Technology Seminar 2013が、引き続き参加者を募集中です。
http://tech.ebu.ch/events/nts2013?newsletter_april2013

- 将来の没入型オーディオを議論するワークショップである Immersive Audio Workshop が、5/15(水)-16(木)の日程で Geneva にて開催されます。
http://tech.ebu.ch/events/audio2013?newsletter_april2013

- メタデータの様々な応用を議論するワークショップである MDN (Metadata Developer Network) が、6/5(水)-6(木)の日程で Geneva にて開催されます。
http://tech.ebu.ch/events/mdn2013?newsletter_april2013

◆FIMS(Framework for Interoperable Media Systems)発

- 2013 NAB Show での FIMS 展示の様子が報告されました。

http://www.linkedin.com/groupAnswers?viewQuestionAndAnswers=&discussionID=232100347&gid=3770968&trk=eml-anet_dig-b_nd-ps_t_title-cn&ut=1GXguuEcd2oII1

なお、上記へのアクセスには LinkedIn へのアカウント登録(無料)が必要です。

◆SMPTE(Society of Motion Picture and Television Engineers)発

- SMPTE Monthly Newsletter 2013 年 3 月号が発行されました。

http://campaign.r20.constantcontact.com/render?llr=iwnzoxjab&v=001VZ097oWchjBJoY9vk4erP6u68e3RPytLb9bBhmqDZb2pQ33fN3iabS-pwdXzbz10PwGI6LMCiTOiRV-Z_m4YEoEJh4X78WQDtBj6CdCkEV3NPt0btivj7a5LSrghZ5_ky3QIRI-oyswrXZ12BIWt3AP10R-3oKUN9DYKrUpjvURpE2vT-y99x3140RToHy7XyVbe0p7dGh_lbF8uj4_62-RiW9ScPM64mx3dXDND0464jgIvd14dAopviHGjiU_AbTdUtvUgwyUAPKBXSFVtAUs3n-VdV7K0urWU6pFD4oF03TCPYxc0w%3D%3D

- SMPTE が EBU、VSF (Video Services Forum) と共同で IP ネットワーク環境におけるメディアのあり方を検討する共同タスクフォースである JT-NM (Joint Task Force on Networked Media) の設置を発表しました。
http://www.prweb.com/releases/prweb2013/SMPTE_EBU_VSF/prweb10608781.htm

◆その他

- Mr. MXF こと Bruce Devlin 氏 (AmberFin CTO) による無料オンラインセミナー "Bruce's Shorts - Tip of the Week..." (日本語字幕付) が、好評配信中です。
<http://www.amberfin.com/shorts-jp/>

◆メタフロンティアからのお知らせ

(新着情報: <http://metafrontier.jp>)

- 弊社が SMPTE に提案し進行中の「UMID 応用プロジェクト」(TC-30MR SG UMID Applications) が提出したレポート (Study Report on UMID Applications Part 1) に基づき新たに提案したプロジェクト (RP 205 改定 AHG) の提案内容レビューが、上位組織である TC-30MR 及び Standard Committee で進められ、今月末には正式に開始する予定です。
https://kws.smpete.org/apps/org/workgroup/portal/project/details.php?project_id=174

- ファイルベースワークフローを導入したものの「こんな筈ではなかった。」とか「何とか使ってはいるものの完全なブラックボックス状態で、万一の時が不安。」などといったことでお困りのユーザー様はいらっしゃいませんか？

特にこれまで親しんできた技術トレンドとは“非連続”な IT ベース技術が業界に急速に広がるにつれ、ユーザー様とベンダ様との会話がうまくかみ合わず、関係を損ねてしまったといったお話もちらほらと伺っております。

ファイルベース技術は今も日々改良が進められているものの、残念ながら現時点においても、(ベンダ様を問わず)ユーザー様のあらゆる要求を完全に満足できるようなソリューションが提供可能な技術レベルには達していません。

従ってファイルベースワークフローの導入を本当に成功させるためには、ユーザー様、

ベンダ様が互いの深い信頼関係の元、技術とコストの兼ね合いから、その時点での「ベストソリューション」を互いに切磋琢磨しながら探っていくといった姿勢こそが最も大切なことであります。

弊社ではファイルベースに関する豊富な技術知識を元に、ベンダニュートラルな立場から、ユーザ様とベンダ様が相互理解をより深めて「ベストソリューション」を見出すための「技術通訳」といったお手伝いをさせていただきたいと考えております。

つきましては、何かお困りのことがございましたら、まずは弊社(info@metafrontier.jp)までお気軽にお声掛け下さい。

- MXF (Material Exchange Format) の出張セミナー、引き続き好評提供中です。

“MXF は初めて”という方々を対象に MXF が絡むビジネス判断をおこなう上で必要とされる MXF 技術の基本知識の習得を目的とした「基礎編」と、これから本格的に SMPTE の MXF 関連規格書を読みこなしていく方々を対象に、その前準備として必要とされる MXF 技術の全体像の把握を目的とした「応用編」をベースに、御社のニーズに応じたかたちにカスタマイズして提供させていただきます。

その他、ご要望により XML (eXtensible Markup Language) の基本や FIMS 等の技術セミナーにも柔軟に対応させていただきますので、まずは弊社(info@metafrontier.jp)までお気軽にお問合せ下さい。

今回のご紹介は以上です。

ここまでお読み下さり、ありがとうございました。

本メールは、弊社スタッフがこれまでに名刺交換させていただいた方や、弊社 HP からのお問い合わせの際、アドレスをご登録いただいた方などにお送りしております。

配信停止を希望される方は、お手数ではございますが本メールに対して返信操作をして下さい(宛先: newsmail@metafrontier.jp)。その際、一行目に「配信停止」と記入していただければ自動的に削除されますので、どうぞご遠慮なく。

また本メールを転送などで受取られた方で、今後の受信を希望される場合は、一行目に「配信希望」とご記入の上、お名前、会社名(あるいは所属組織名)を添えて下記宛先にご連絡いただければ、次回から送信させていただきます。

また本メールに関するご意見、ご感想などがございましたら、こちらも下記宛先にお送り下さい

(宛先: request4newsmail@metafrontier.jp)。

編集/発行 : メタフロンティア合同会社 柴田賀昭

〒221-0822 横浜市神奈川区西神奈川 1-13-12 アーバンビル 6F

URL: www.metafrontier.jp

Copyright (C) 2012 metaFrontier.jp, LLC. All Rights Reserved
